

日立市生活環境部環境衛生課 御中

2021年3月4日

県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会

代表 荒川照明

県産業廃棄物最終処分場建設に関する意見の申し入れ

今回は県産業廃棄物最終処分場建設に関する私たちの意見を聞いて頂き、感謝いたします。

当方として、下記項目を要望いたします。

- 1, 昨年8月31日に提出しました日立市長様宛の要望書にあります「茨城県知事に対し、日立市内への県産業廃棄物最終処分場の建設を受諾しない立場での意見具申をすること」および「日立市として、市民の意見を聞く会を小学校区単位に開催する等、市長は十分に市民の意見を集約すること」を改めて要望します。
- 2, 太平田鉱山跡地には、100年にわたって石灰石を掘り産業遺跡とも言うべき地層があります。また周辺には約5億年前のカンブリア紀の地層が現れるジオサイトになっています。さらに跡地は日立市中に流れる地下水の源流です。これら資源を守り活用するための検討を市として行うよう要望します。
- 3, 石灰岩の空洞は、雨水や地下水などの浸食により経年変化が発生し、新たに空洞が生まれるともいわれています。そのような石灰岩の上に産廃最終処分場を建設すると陥没など事故のリスクを未来に渡って負うことになります。石灰岩の上に産業廃棄物最終処分場を作り廃棄物を埋めることを市は認めないよう要望します。
- 4, 2月に茨城県から示された「新産業廃棄物最終処分場整備に向けた課題への対応策」は、「周辺環境への影響」について、「地下水調査」や「環境影響調査」は「調査中」と記載があり、中間報告という位置づけです。また、新搬入道路建設計画が示されましたが、新しい道路から廃棄物搬入を搬入すると、国道6号や山側道路に産廃運搬車が頻繁に通ることになり環境が悪化します。また、県は3月に住民説明会を開催する予定ですが回数が少なく不十分です。ですので「新産業廃棄物最終処分場整備に向けた課題への対応策」が示されたことと3月の住民説明会をもつての処分場建設は受諾しないよう要望します。
- 5, 2月24日の市長記者会見（茨城新聞報道）で小川市長は「新ルートは評価できる」と発言しましたが、新搬入道路の詳細は示されていません。市長は、市民の不安や要望に県が応えたことについて評価したと考えますが、「新ルートは評価できる」と発言しますと、新しい道路そのものを評価し、処分場建設を認めてしまったと受け取れます。

県が詳細を示したのち検証を行うという手続きが必要と考えます。さらに、私たちは新ルート建設そのものに問題があると考えます。本当に評価できるものなのか見定め検証してから発言するよう要望します。

- 6, 諏訪学区の「環境保全委員会」という任意団体が、諏訪学区コミュニティ推進会発行の「ふれあい諏訪」にて特集で掲載されました。多くの考えを持った人や立場の人で構成する地域コミュニティの発行物に任意団体である「諏訪学区環境保全委員会」に関する記事を掲載しないよう指導することを要望します。

また、3月6日の午前中に諏訪学区で行われる住民説明会の案内文の発行元に「諏訪学区環境保全委員会」の名が記載されていました。しかし、県ホームページには諏訪学区で行われる住民説明会の案内が掲載されていません。県ホームページに掲載されないような住民説明会では案内不十分で、他の説明会と同等ではないと考えます。「諏訪学区環境保全委員会」と県に対し、住民説明会は県主催で、県が責任をもって行うよう両者に市から注意することを要望します。

- 7, 今回の意見申し入れ後、一定期間をおき、お互いの意見を検討し、検討結果や意見をお互いが述べる形での会合の開催を要望します。

以上